第 235b 回　東京都板橋区、西東京市、及び東大和市の覚鑁上人像（その２）

筆者：林　久治（記載：2023 年 5 月 12 日）

前回の記事/f（東京都板橋区、西東京市、及び東大和市の覚鑁上人像：その１）は、記載の途中で容量の限界に達してしまった。従って、本稿にその続報を記載する。

（４）西東京市総持寺の境内

西東京市の田無駅前には大きな神社と寺院がある。神社は田無神社で、寺院は総持寺である。それぞれの紹介は、３）のサイト/0 と４）のサイト/0 に記載されている。図１は田無駅北口の周辺地図で、田無神社と総持寺の場所が記載されている。

図 1．田無駅北口の周辺地図

本稿では、田無神社の紹介は省略し、総持寺（以後は本寺と書く）を少々紹介する。次ページの図２に、本寺の境内図を示す。前回の記事/f では、山門の写真と妙見堂前の弘法大師像と覚鑁上人像の写真を掲載した。５）のサイト/は、「妙見信仰」を次のように解説している。

妙見菩薩（みょうけんぼさつ）は、北辰尊星王（ほくしんそんしょうおう）ともいい、北辰（北極星）を仏格化した「星の仏さま」です。宇宙の中心・根源とされ、星々のなかで最高位にあり、五穀豊穣・天下泰平・一族繁栄・病気平癒・息災延命・商売繁盛・交通安

全・学業成就・縁結びなど、あまねく願いをお聞きくださる諸願成就の仏さまです。平安時代には現世利益を願う妙見信仰が広まり、中世には武士の軍神として、近世には諸願成就の仏として民衆の信仰を集めました。

図２．総持寺の境内図

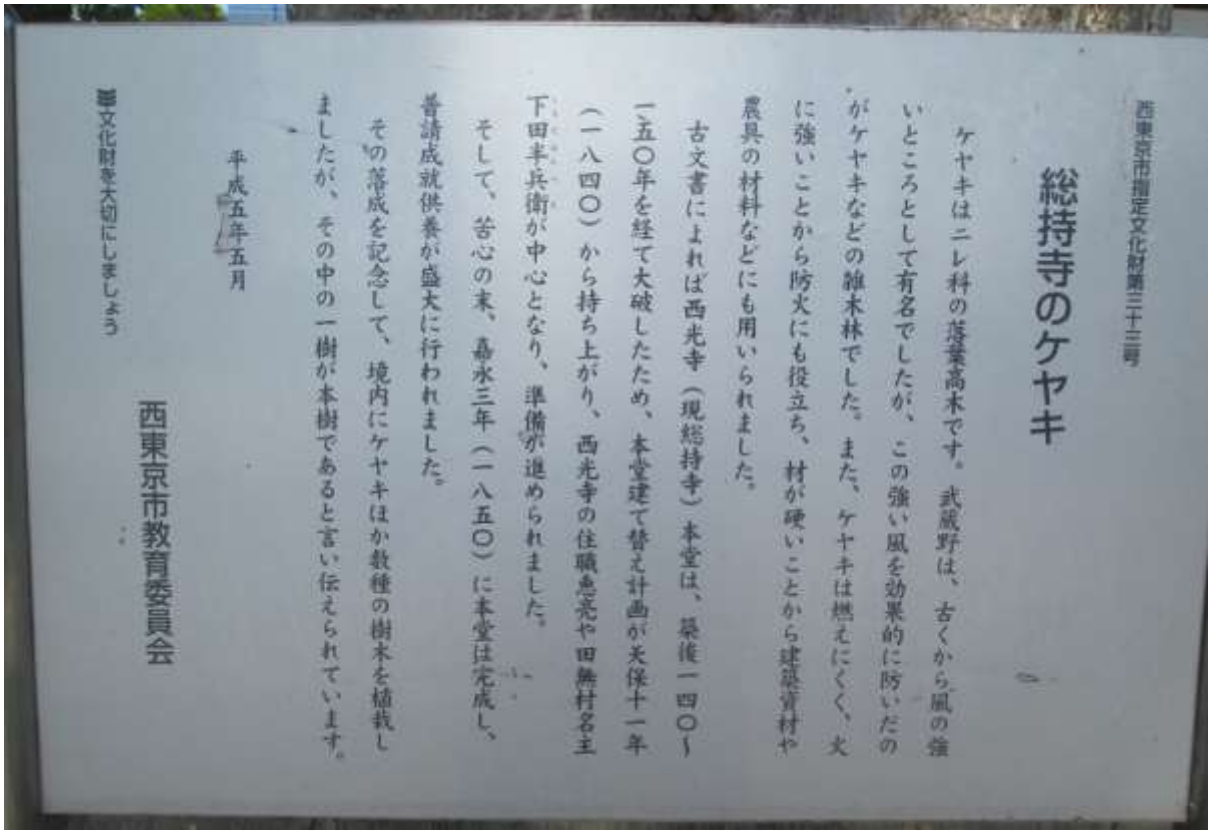
次ページの図３上に本堂を、図３下に妙見堂前のケヤキの大樹を示す。ケヤキの掲示板（４ページの図４）には、次のように記載されている。

西東京市指定文化財第三十三号　総持寺のケヤキ

ケヤキはニレ科の落葉高木です。武蔵野は、古くから風の強いところとして有名でしたが、この強い風を効果的に防いだのがケヤキなどの雑木林でした。また、ケヤキは燃えにくく、火に強いことから防火にも役立ち、材が硬いことから建築資材や農具の材料などにも用いられました。古文書によれば西光寺（現総持寺）本堂は、築後 140～150 年を経て大破したため、本堂建て替え計画が天保 11 年（1840）から持ち上がり、西光寺の住職恵亮や田無村名主下田半兵衛が中心となり、準備が進められました。そして、苦心の末、嘉永 3 年（1850）に本堂は完成し、普請成就供養が盛大に行われました。その落成を紀念して、

境内にケヤキほか数種の樹木を植栽しましたが、その中の一樹が本樹であると言い伝えられています。平成五年五月　西東京市教育委員会

図３.
上：総持寺の本堂、
下：妙見堂前のケヤキ。



西東京市指定文化財第三十三号

総持寺のケヤキ

ケヤキはニレ科の落葉高木です。武蔵野は、古くから風の強いところとして有名でしたが、この強い風を効果的に防いだのがケヤキなどの雑木林でした。また、ケヤキは燃えにくく、火に強いことから防火にも役立ち、材が硬いことから建築資材や農具の材料などにも用いられました。

古文書によれば西光寺（現総持寺）本堂は、築後一四〇～一五〇年を経て大破したため、本堂建て替え計画が天保十一年（一八四〇）から持ち上がり、西光寺の住職鳥亮や田無村名主下田半兵衛が中心となり、準備が進められました。

そして、苦心の末、嘉永三年（一八五〇）に本堂は完成し、普請成就供養が盛大に行われました。

その落成を記念して、境内にケヤキほか数種の樹木を植栽しましたが、その中の一樹が本樹であると言い伝えられています。

平成五年五月

西東京市教育委員会

文化財を大切にしましょう

図４．「総持寺のケヤキ」の掲示板

ケヤキの説明文より、本寺の本堂は 1850 年に建替えられたことが分かる。私は本寺の覚鑁上人像を探索した後、西武鉄道線を乗り継いで、田無駅から武蔵大和駅まで行った。その路線図を図５に示す。

図５．西武鉄道の田無駅から武蔵大和駅までの路線図、本図は、６）のサイト/より借用。

（５）東大和市円乗院の覚鑁上人像

次ページの図６上には、武蔵大和駅から円乗院（以後は本院と書く）までの道順を示す。私はスマホを持たないので、予めこのような地図を用意した次第である。駅から本院までは、徒歩で約 15 分であった。（本文は６ページに続く。）

図５．

上：武蔵大和駅から円乗院までの道順、

①武蔵大和駅エレベーター→②谷里保育園ル・ポア→③西武信用金庫東大和支店（「園乗院」の入口案内）→④園乗院

中：「園乗院」の入口案内、③地点。

下：園乗院の山門

図５下に本院の山門を、図６上には本堂前に設置された座像を、図６下には本像を示す。本像の題字には「真言宗再興祖　興教大師」とあった。本院には、興教大師像はあったが、弘法大師像は無かった。

図６．上：本堂前に設置された座像、下：興教大師座像。

図７．左：本像背面の制作者サイン、右：本像台座背面の銘盤。

図７左に本像背面の制作者サインを、図７右に本像台座背面の銘盤を示す。これらの写真により、以下の事項が判明した。

① 本像の制作者は、石黒孫七氏である。

② 本像の設置日は、平成 2 年 11 月である。

③ 本像の功徳主は、小野榮吉氏である。

石黒孫七氏の詳細な経歴はネット記事には無かったが、7）のサイト/1 には次の記載があった。

石黒孫七：銅器の街・富山県高岡市に在住しフリーランスのクラフトデザイナーとして金属に於けるプロダクトデザイン開発に従事している。1968 年金沢美術大学彫刻家在学中新制作展に銅を使用した集合彫刻で入選し以後高岡にて多種の鋳造技術法案の研究をしており、現在主にテーブルオーナメントや照明器具、壁面パネル亦時計装身具の他、仏像、銅像等多く制作している。

１）のサイト/には、石黒孫七氏が制作した銅像が多数収録されている。その中で、徳島県小松島市の源義経騎馬像は特に有名である。８）のサイト/1 には、本院の略歴が記載されているので、それを本像の概要欄に記載する。覚鑁上人の略歴は前回の記事/f に記載したので、今回もそれを利用する。以上の資料などにより、本像の概要は次の通りである。

覚鑁上人座像（東大和市）

設置場所：東京都東大和市狭山 3-1354　円乗院本堂前

制作者：石黒孫七（徳島県小松島市の義経騎馬像を制作）

設置時期：1990 年 11 月　興教大師 850 年御遠忌記念

功徳主：東大和市高木　小野榮吉

設置経緯：真言宗智山派寺院の円乗院は、愛宕山醫王寺と号します。円乗院は、賢誉法印（平治元年 1159 年寂）が開山となり創建したといいます。武蔵野三十三観音霊場 8 番、多摩八十八ヶ所霊場 38 番です。

興教大師覚鑁（こうぎょうだいしかくばん、1095-1144）上人は真言宗中興の祖。新義真言宗の教義を根付かせ、現在の新義真言宗（根来寺派）、真言宗豊山派（長谷寺）、智山派（智積院）の基礎となった。嘉保２年(1095)現在の佐賀県鹿島市に誕生。13 歳の時入京。仁和寺に於いて得度。修学修行を積まれ 20 歳にして高野山に登嶺。弘法大師を崇敬、大師の歩まれた道を範として刻苦勉励日夜を分かたず精進研鑽、その学徳並ぶものなしと言われた。高野山を再興し、大師教学を振興した功績は誠に大。根来山に於いて 49 歳を以って入滅。1690 年、東山天皇より興数大師と諡名賜る。

参考資料

１）のサイト：https://douzou.guidebook.jp/

２）のサイト：http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf

３）のサイト：https://cocc-rg.hatenablog.jp/entry/2022/05/28/123000

４）のサイト：https://cocc-rg.hatenablog.jp/entry/2022/05/28/133000

５）のサイト：https://ikaruga-horinji.or.jp/about/bosatsu/

６）のサイト：https://www.seiburailway.jp/railway/station/

7）のサイト：http://yutaka901.fc2web.com/page5aqx01b.html

８）のサイト：
https://tesshow.jp/tama/eyamatommurayama/temple_sayama_enjo.html